

解答

『一』 他国から日本に帰ってきた時に、仕事が行き届いていて丁寧であると切実に感じるもの。

問一 ② イ

③ ハ

問三 日本は、ありふれた日常空間の始末をきちんととする意識を社会全体が共有しており、労働者も、丁寧に篤実に仕事をしているが、ヨーロッパは、何かをよりよく丁寧にやろうとする意識が薄く、労働者も、効率や品質向上させようという意欲よりマイペースを貫く個の尊厳を仕事に優先させているから。

問四 環境や省エネルギーに対する意識が高まっている状態。

問五 二・チ

問六 A 領域 B 不断 C 構図 D 洗練 E 溫暖

二

問一 「息子」宝の山

〔私〕ひみつ道具

問三 主人公がなんでもできるスーパーマンではないし、助けてくれるドラえもんもデキのいいロボットではない、という設定だから。

問四 勉強にマイナスとなる発想が、学校に行く前の息子に刷り込まれてしまうのではないかということ。

問五 のび太が、勉強のとき、なまけごころが出るが、一年に二、三回反省してひとみを輝かすことで、息子に、なまけるのはよくないということをわからせる存在であること。

『三』

I	①	就航	②	採算	③	横暴	④	興奮	⑤	危険	
II	⑪	⑥	旅券	⑦	装置	⑧	警笛	⑨	看護	⑩	辞任
	⑫	歯	⑬	粉	⑭	鼻	⑮	馬	⑯	春秋	

解説

『一』 出典は、原研哉の文章。

問一 傍線部①の直前に「この丁寧さが、他国から帰ってくると切実に感じられる」とあります。ここに「いつ、どのようく感じるものか」という問い合わせに対する答えは書かれていますが、「この丁寧さ」が何の丁寧さなのか、説明する必要があります。これについては、傍線部③の次の段落に、「掃除をする人もうすべて丁寧に篤実に仕事をしている」とまとめられています。つまり、「日本の仕事は丁寧だ」と、筆者は他国から日本に帰ってくるたびに感じるのですね。これらを材料に、解答をまとめましょう。文末は「う感じるもの。」とします。

問三 設問の条件から、解答の骨組みは「日本はうだが、ヨーロッパはうから。」のようになります。次に、日本とヨーロッパの違いについて考えます。日本の仕事の完成度が高いのは、「丁寧に篤実に仕事をしている（問一）で確認した部分」、「ありふれた日常空間の始末をきちんとすることや、それをひとつの常識として社会全体で暗黙裡に共有すること（傍線部Aの次の行）」からです。この部分をまとめれば、解答の前半部分は完成します。次にヨーロッパについてですが、傍線部④の直後に「基本的に何かをよりよく丁寧にやろうという意識が希薄である（効率や品質を向上させようという意欲よりもマイペースを貫く個の尊厳が仕事に優先する）」と書かれていますね。このような姿勢では、日本のような完成度の高い仕事をするのは難しいと筆者は述べているのです。この部分をまとめれば、後半部分も完成します。あとは、制限字数や表記に気を付けて解答を清書しましょう。

問四 傍線部⑤の状態にあることが現在の日本人にどのような状態をもたらしているかについて、本文中に直接書かれていません。しかし、傍線部⑤の二行後に、「そもそも日本に石油が豊富に湧き出していたら、おそらくは環境や省エネルギーに対する意識は今日ほどには高まつていなかつたはずだ」とあります。この部分を逆に考えれば、「日本は天然資源が乏しいので、環境や省エネルギーに対する意識が高まっている」といえます。この内容を、文末表現に注意してまとめましょう。

問五 傍線部⑥の直前に、「文化の根底で育まれてきた感覚資源はお金で買うことは出来ない」と書かれています（解答の一つは「チ」）。さらに、同じ段落には、「この国（＝日本）を繁栄させてきた資源は別のところにある。それは纖細、丁寧、緻密、簡潔にものや環境をしつらえる知恵であり感性である」とあります。つまり、日本人の根底にある「纖細、丁寧、緻密、簡潔」という価値観が、「求められても輸出できない」ものです。残った選択肢の中から、これに最も近いものを選ぶと、もう一つの解答（＝「二」の「美意識」）となります。

《二》出典は、俵万智「息子の友だち、ドラえもん」。

問一 傍線部③の次の段落に、「泳げないのび太のことを思つて、『おぼれ大会』なんていうのを考えてしまふほど、息子はのび太蠶殻だ」と書いてあります。これに最も近いものを解答に選べばよいでしょう。

問二 「息子」については、傍線部②と同じ段落の最後に、「（息子には宝の山だった」とあります。また「私」については、傍線部④の二行前に「母にとつては、いまや『ドラえもん』そのものがひみつ道具だ」と書かれていますね。

問三 解答は離れた部分にありますが、見つけること自体は難しくない問題です。

問四 「登場人物に感情移入する」を言いかえた部分は、傍線部③の次の段落にあります。「だから子どもは、親しみを感じるし、一緒になつてハラハラもするし」と書かれていますね。文頭に順接の接続詞「だから」があるので、感情移入する（＝親しみを感じる）理由は、「だから」の直前にあると判断します。すると、のび太とドラえもんについて、筆者は「主人公（＝のび太）が、なんでもできるスーパーマンではなく」、「ドラえもんと、決してデキのいいロボットではない」という設定だ」と述べていますね。解答は、この二点をうまくつなぎ合わせてまとめましょう。

問五 傍線部④のすぐ後に「『勉強は、つまらない』などいう発想が、刷り込まれてしまふのではないだろうか」とあります。この部分を解答に使用しますが、次の二点をうまく処理しましょう。一点めは、「『勉強は、つまらない』『テストは、むずかしい』『宿題は、イヤイヤやるもの』」の部分を、「勉強のマイナスとなる発想」など、別の表現で短くまとめる、こと、二点めは「だれに刷り込まれるのか」を明確にすることです。

問五 「反面教師」の意味は、「見習い学ぶべきではないものとして、悪い手本・見本となる事柄・人物」です。ここでは当然、のび太が筆者の息子にとつての反面教師となっています。では、のび太がどうすることと、筆者の息子にどのような考え方を持たせているのでしょうか。その答えは傍線部⑤の前後にありますね。「のび太は勉強のとき、どうしても、なまけごころが出るんだ。でも一年に二、三回反省して、ひとみが輝くんだよ！」なんてこと（）の部分が、のび太の行動です。この会話表現を適切な表現に直せば、解答の前半部分ができあがります。次に傍線部⑤の直後を読むと、「子ども心に、なまけるのはよくない」ということが、わかつているようだ」と、筆者の息子の考えが示されています。これで解答はほぼ完成です。あとは文末表現や主語・述語・修飾語の関係などに注意してまとめましょう。